

第 23 回みのわ未来委員会会議要録

日時：令和 2 年 2 月 21 日（金）15 時 00 分～17 時 00 分

会場：文化センター研修室 1・2

参加者：委員 9 人（欠席：矢島委員、山中委員、柴委員）

町長、事務局 3 人（企画振興課）

地域コミュニティ活性化委員会委員長

傍聴人数：1 人

報道機関：2 人

1 開 会 （毛利企画振興課長）

2 委嘱書交付

3 会長あいさつ

4 町長あいさつ

5 自己紹介

6 協議事項（進行 小口会長）

（1）人口ビジョン、まち・ひと・しごと総合戦略の改訂について

※資料 1 に基づき事務局から説明

沖村委員）

合計特殊出生率が増えている。増えている要因は。

小笠原係長）

子育て施策をうっている部分はあるが具体的な要因については、見えていない。

沖村委員）

もし、町で行っている有効な施策があれば、それを強化すべき。上手く要因が出てくればいいなと思うが。

白鳥町長）

具体的な事は分からない。子育て世代に対して色々な施策を入れている。保育料の問題

等。学童保育料は、H26 まで月 8,000 円だったのを 4,000 円に安くし、経済的負担の軽減を行った。医療費の窓口負担もそう。経済的負担を軽減した事が大きいと思う。ただこれらは、全県ほとんど、大きな市を除けば行っている。公園の整備や遊具整備等、保護者の皆さんの意向に出来るだけ沿うように施策を少しずつ積み重ねてきたつもり。自分の着任当初の合計特殊出生率は、1.4 位。地方創生始まる前。今は、1.7 まで上がった。もともとの分母が少なくなっているんで、出生率が良くなっても年間 200 人の壁を越えられない。今年、かなり出生率が落ち込んでいる。しかし、周りでも 3 人子供を産む世帯が見え始めている。

沖村委員)

出生率が伸びているのは、素晴らしい事。先日、日経のセミナーに行った所、総務省が行っている関係人口がテーマで講演があった。関係人口を増やす事の効果が出ているとの事。交流人口は、観光者。定住人口は、住んでいる人。そのどちらでも無い人、箕輪町に愛着を持っている、関わりがある人を増やすことによってその人が来てくれたり、その子供達に来るかもしれない。総務省でも予算をつけて、関係人口を増やす為の取り組みを行っているんで、ご検討いただければ。

白鳥町長)

来年度の予算の中にも関係人口の増加施策は、入れてある。果たして移住につながるかは、難しいかもしれない。2 地域居住の拠点が箕輪町には無い。関係人口の作り方として、農業体験とかは単なる観光として見ると、箕輪の地に一定の時間留まってお金を落としてが可能になるので、行う事は必要だと思っている。人口増加策として、関係人口が移住に結びつくかは疑問だが、関係人口によって色々な地域の方から刺激を受ける機会が増えるのではないかと考えているので、必要だと思っている。

小口会長)

女性人口の増加が大きな課題となっていたが、この部分について木村副会長の立場でお話できる事があれば。

木村副会長)

6 P、女性従業者の減少が顕著という中で、30 歳代と 50 歳代がリーマンからの反動で増えてるとあるが、当地区に限定して起きているのか、増えている要因は分かるか。

小笠原係長)

国勢調査で 5 年に 1 度しか調査していないので、どういう流れが起きたかまでは、分かっていない。

木村副会長)

7ページ。産業構造は、中々変わらないと思うが、女性従業員の受け皿を増やす施策の好事例はあるか。

小笠原係長)

この後、総合戦略に出てくるが、町としてクラウドソーシング等が女性従業員の受け皿としてあるが、新たな産業、大きな雇用を作り出すには至っていない。

木村副会長)

箕輪町は、バイパスが非常に発達している。最近の動向として大手業者がバイパス沿いにまだまだアパートを建てたいという話がある。場所が良ければ、アパート入居率 90%以上を確保出来ている。箕輪町は、伊那、辰野、岡谷へのアプローチが良い。業者からは、まだまだ箕輪町はいけますよという話がある。我々も積極的に取り組むという話もさせていただいている。

白鳥町長)

お隣の村の住宅の着工数が今年度圧倒的に箕輪町より多い。例年は、箕輪町の方が多いが。それは、今おっしゃったようなアパート、マンション系の戸数が、今年は、圧倒的にお隣が多い。土地利用の課題があると思う。農振地域が他に比べて多い。役場中心は農振外れているが、町の中心の方が所有して売るのが無い方も多く、土地離れが箕輪町は悪い。

木村副会長)

某業者の方もこんなにもいい場所があるのに何にもないなんてと言っている。

白鳥町長)

不思議な位、土地離れが無い。土地の価格は下がっているのに、土地を離してくれればいいのと思うが。隣の村は、農振が外れている所が多い。

女性の事で言うと、箕輪町は非常に特殊。観光地以外で男性の方が多い町村は、箕輪町だけ。どこの町村も女性の方が多い。男性の独身も含めて外から製造業の関係で来ている方が多いという事だと思う。その差が出てしまう。女性に留まってもらう、もしくはUターンで戻ってもらうという所を入れていかないといけない。職場としての魅力は、町村単位では作りきれない。金融機関でも作ってもらいたい。県、国レベルで学ぶ場所、働く場所を仕組みをいれていかないと。町レベルでは、企業の誘致がやっとな。町で誘致出来る企業は、製造業。大学とかは連れてこれない。

高橋委員)

北小学校が学童保育を増築した。2人目の子供をどうしようか考える時にそういう施設があったらとか働いている親御さんの先輩に大丈夫だよとか、安心して働ける環境が揃うのが30代なのでは。働きやすい、産みやすい環境を同時に作りだしてもらえれば、側面支援につながるのでは。これは、民間では出来ない事なので行政がバックアップしてくれれば口コミで親が安心感を持つのでは。

※資料2に基づき事務局から説明

沖村委員)

17、18ページ。農業関係のKPIが4倍近い数値(農産物直売所利用者数42,355人→170,000人、農産物直売所売上額5,300万円→20,000万円)となっているが、何か特別な事を行うのか。

白鳥町長)

農産物直売所にこりこを建て替えて、指定管理をJAにお願いする。その向かい側に八乙女の共選所があり、選果場から出てきたものをJAの関連が売っている。それを一緒にして新たな直売所を作る。現在の売上高を足すと1億ちょっとあるので、相乗効果でここまで持ち上げたいという願いがある。これを目標に指定管理をJAにお願いする。おそらく達成すると思っている。

沖村委員)

飯島町は、直売所をバイパス沿いに作った。箕輪町もバイパスがあるがどうか。

白鳥町長)

バイパス沿いに作る事例は、他もやらない。飯島町が特別な事例。一番通りが良いのは、春日街道。大規模農道は、少し上すぎるが、大芝公園からの動きもある。ICにそのまま入っていけるので、場所的には悪くないかなと。

野澤委員)

18ページの上。事業所数。社会的にも多くの事業所で後継者問題が起きると思う。ここには、農業の事業者数も含めて予算付けを行ってほしいと思う。

白鳥町長)

この事業承継は、製造業。1人の所も含めて320~330社ある。4人以上で130社。3割~4割で後継者いない。行政が絡むのは、中々難しい。ほとんどの企業に金融機関が入っている。金融だけで出来ない場合は、商工会とか行政とか。補助事業を行っているが、

中々、行政には来ない。確かに目標値少ないが、今年0件だったので1件にしたと思う。農業は、新規就農者かみのわ営農か大規模経営者に流れるかという感じなので、そういった所へ後押しする必要はあると思う。検討してみる。

小松委員)

24P。遊具整備について。木下でバナナ公園を作った。トイレ、駐車場が無いので近隣しか使えない。遊具自体も年齢が高くないと使えないもの。まだ中途半端かなと思う。私の友人がシステム教育で全国の小学校の研究会に呼ばれている人がいる。システム教育を小学校、中学校で行うことによって、すごく飛んだ考えだが箕輪工業高校がせっかくあるので、システム教育を早くから少しずつ行って、箕工で学んでエプソン技専に進学するような特色ある教育を。合唱で小中学校がダブル受賞したが、その時の指導者唐沢流美子先生は、キングヌーのメンバーを教えていた。そういった優れた教育者をお招きする位、力を入れて欲しい。学童保育で夏の間、お弁当を持たせるのは、親にとって負担だと思う。学童保育でのケータリングとか。保育園の先生、保護者の双方の負担を減らす為におむつを保育園で処分。子育てしやすい町というイメージが定着すると若い女性に来ていただけるのでは。

白鳥町長)

色々考えてみる。システム教育については、他の自治体より進んでいると思うが特色があるかというところではないかも。力のある先生を招くのはいいが、教員は、人事異動で動いてしまうのでそうじゃない人を連れてくるとか。合唱やスポーツ系の指導者は、足りていない。長野県は、教員に指導力を任している。長野県の特殊性。おむつは、提案してもダメ。保育園側が出来ないと。おむつの処分が出来ない。やっている所は、日本の中でいくつかある。東京とか。保育園側に提案した事はあるが、出来ないと返答があった。理由については、調べておく。

小松委員)

複数の子供が通っていると布団や着替えやおむつを持って帰るのがかなり大変。

白鳥町長)

処分経費は、変わらない。どうしても難しい理由がある。確認してみる。

小松委員)

お掃除も先生方だけでなく、専門の方をお願いしてもいいのかなと思う。シルバー人材や就労施設とか。

白鳥町長)

タブレットを導入する。そうしないと保育士さんの働き方改革にならない。

重盛委員)

事業承継の支援。跡継ぎがない中での技術を売るとかM&Aみたいな。町内同士の中。銀行さんがやったりしているが。そういった所への支援を今後考えたりしているか。

白鳥町長)

現在もそれに関わる弁護士活用の補助等を入れてあるが、活用が無い。知らないという事もあると思うが。それ以外に事業承継に何らかの支援をする事で進むのであればしたいなと思う。考えてみる。

重盛委員)

5Gの時代。行政側としてAI, IOTの活用をどうするか。

白鳥町長)

役場業務の中にAIやRPAの導入をしないといけないかなと思っている。行政の仕事は、かなり成熟している。その中のルーティンワークがかなりあるので、AIを入れる事により10時間かかった仕事が30分で出来る時代になっている。箕輪町の規模は、中途半端。40万人規模(長野市)と2万人規模(箕輪町)では、費用対効果が違う。効果の出方が難しい。ある程度、広域や他市町村との連携を行わないと成果が生まれないので悩んでいる。民間側への支援施策を出来ればと思っている。当町の場合、製造品出荷額1,500億円。主要6社で6割~7割。残り130社程度で600億円程度。中小零細でAI系が進むような仕組みを作っていないといけないと考えている。若い経営者が随分いるので、取っ掛かりが出来れば。

沖村委員)

導入支援。導入時、大手のソフトを入れないといけない。そうすると金が外に流れてしまう。富士見や飯綱町は、IT企業の誘致に成功している所がある。内発型でも誘致型でも良いがIT企業を育てていく必要があるのかなと。長野市と箕輪町の導入コストは、対して変わらない。箕輪町オリジナルで安い物を作ろうとするとダメ。買ってきた方が安い。それにOSが変わった時に手直しが利かなくなる。

白鳥町長)

今後、どうしてもやらないといけない所。

沖村委員)

IT系は、女性が活躍できる職場。塩尻市は、女性のプログラミングを講座で行っている。その方々がHP作成に携わっていたりする。プログラミングは、力を入れているとの事なので、その活用もいいのかも。

白鳥町長)

クラウドソーシングで核になるのは、産業支援センターの中で1社企業があり、お母さん方がインターネットを通じて、パソコンで仕事をしている。60人弱の登録がある。30人は、ほぼ毎日やっている。子供さんを保育園に預けて、自宅でやるかその場所に来てやるかを選んで行っている。大したお金になるわけではないが、ここに来る皆さんは、都会に住んでいて結婚してくる方がかなりいるので、パソコン業務に慣れている。子育てでそこから離れてしまうと社会から断裂してしまうので、そういった働き方をしながら次のステップに行く必要がある。そういった事はやろうと思っている。塩尻みたいなかなりやっている所と仕事のタイアップをしている。塩尻の仕事をもらったりとか。そういった取り組みをしないと若いお母さん方の満足度が高まっていかない。

沖村委員)

県でもITバレー構想を作っている。協議会の事務局を請けおっているので協力出来れば。

(2) 住民満足度調査結果(速報)について

※資料3に基づき事務局から説明

(3) 第5次振興計画の改訂について

※資料4に基づき事務局から説明

(4) 地域コミュニティ活性化委員会からの提言について

※資料5に基づき根橋委員長、事務局から説明

(5) 令和2年度一般会計予算案について

※資料6に基づき事務局から説明

7 その他

8 閉会

17時15分 終了

次回委員会→今年度の事業評価。振興計画前期評価。7月頃を予定。